

阪 喉 会 のごあんない

(喉頭摘出者の社会復帰を)
支援する会



公益財団法人 阪 喉 会

〒550-0002 大阪市西区江戸堀1丁目22番38号
三洋ビル203

TEL (06) 6444-1321 FAX (06) 6444-1432
ホームページ <http://www.hankoukai.jp>

1. 設立から今日まで

第2次世界大戦後、喉頭がん患者の手術後の生存率が飛躍的に向上した結果、1946年（昭和24年）大阪大学医学部耳鼻咽喉科吉田祺一郎助教授の執刀を受けた患者たちが集い、互いに励まし合い、親睦を深めるため、日本はもとより、世界で最初の喉頭摘出者の会「阪喉会」が設立されました。会は笛式人工喉頭による発声練習を行いながら、笛の改良や改善の研究を進めます。阪喉会に続いて、全国に次々に誕生する喉友会にも「阪喉会の笛」として定着していきました。

1958年（昭和33年）頃からは、発声のための器具を使わない「食道発声法」が米国から伝わりました。大阪大学医学部耳鼻咽喉科佐藤武男助教授の「食道発声法—その理論と実際」に基づいた「食道発声教本」が発刊され、阪喉会をはじめ全国的に食道発声法が普及されます。先輩患者が習得した食道発声などの代用音声の発声方法を後輩患者に指導する、同病者ボランティアのシステムが確立していきました。

活動の充実とともに、1972年（昭和47年）大阪府知事の認可を得て「財団法人阪喉会」に、2008年（平成20年）内閣府の認定により「公益財団法人阪喉会」に、組織も充実してきました。公益財団法人の認定によって、税法上の寄付金の控除も認められるようになりました。

喉友会の全国組織「日本喉摘者団体連合会」が1970年（昭和45年）に設立され、加盟団体は各都道府県に約60団体となっていて、その登録会員総数は約1万人に近くなっています。

阪喉会の会員数は、1986年のピーク時には約900名になりましたが、禁煙の普及や医学の進展で徐々に減少し、2016年（平成28年）現在では、約400名となっています。今日までに、阪喉会の発声教室で代用音声を習得して、社会復帰された方々は延べ約7,000名に達しています。

2. 代用音声の種類

喉頭を摘出した、言語機能喪失者が取り組む代用音声には、次の4種類があります。

(1)食道発声法

口や鼻から食道内に空気を取り入れ、その空気を還流させて、仮声門で原音を出して発声します。

(2)笛式人工喉頭発声法

気管孔から肺呼吸をパイプで口腔に送り、そのパイプ内のゴム膜弁の振動音を利用して発声します。

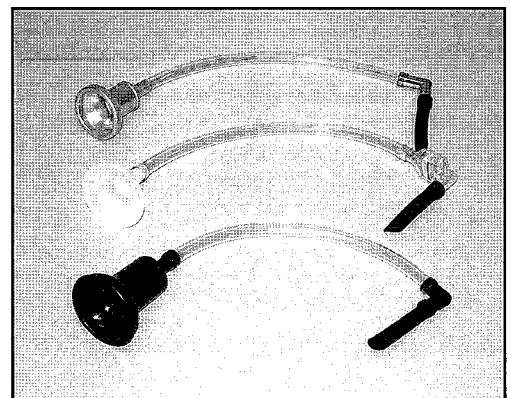
(3)電動式人工喉頭発声法

電動で振動するブザー音を下顎に当てて発声します。

(4)シャント発声法

医学的な施術で、気管から食道へ細い管をつなぎます。気管孔を押さえると、肺呼吸がこの管から口腔へ流れ込みますので、仮声門で原音を出して発声します。

以上の4種類の発声法の中から、本人の希望する発声法で指導します。発声が上手にできるかどうかは、年齢、体力、手術方法や部位など、いろいろな条件に影響されます。取り組んでみて、うまくいかなければ、相談して別の方法を試してみることも必要です。



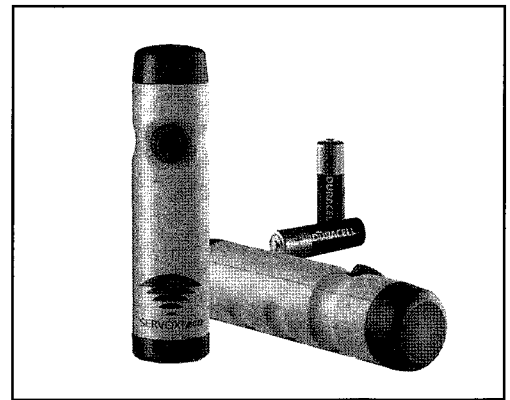
笛式人工喉頭各種（阪喉会製）

また、それぞれの発声法には長短があります。食道発声法は仮声門とはいえ肉声に近く、器具を使わないので両手が自由に使える、すぐれた発声法です。ただ相当の体力を必要とするのに、声量が限られるという難点があります。ほとんどの人が習熟可能ですが、熟達までには努力とあきらめない気力が必要な方法です。

笛式人工喉頭発声法は、気管孔から肺呼吸を送り込むので体力を必要とせず、声量も大きく習熟も比較的早い方法です。ただ発声するときには片手をとられる不便があるのと、笛を口の中に出し入れするので衛生面に注意が必要です。

電動式人工喉頭発声法も、電気のブザー音を利用するので体力は必要としません。下顎の良い音の出る部位を見つければ、比較的に早くに会話ができるようになります。また、発声するときには片手をとられる不便があり、機械音なので音程が平面的で単調なため情緒的な表現に弱点があります。

シャント発声法は、医学的に気管から食道へのバイパス手術を受けた人に限られる方法です。仮声門を使うのは食道発声法と同じですが、肺呼吸を使いますので音量などは有利です。バイパス部分の日々の手入れが必要で、数か月に一度はバイパスを入れ直す手術が必要です。



ゼルボックスエコ補声器（ドイツ製）

3. 発声教室

(1) 肥後橋教室

① 初心者説明会：毎週月曜日11時～12時20分

当会で発声の練習を希望される方は、最初にこの初心者説明会を受講していただきます。

練習にあたっての基本、使用する教本、発声法の種類と内容などを説明します。そして、取り組まれる発声法の種類の選択について相談します。

② 食道発声初級教室：毎週月、水、金曜日11時～12時20分

原音「ア」の発声練習から、五十音、長音の発声を練習。

③ 食道発声女性教室：毎週月、水、金曜日11時～12時20分

女性指導員による、女性だけの教室です。初級の原音「ア」の発声練習から、日常会話や朗読の練習など中上級の練習。

④ 食道発声中上級教室：毎週月、水、金曜日13時～14時20分

中級は、簡単な日常会話から短歌や俳句の朗読などを練習。上級は、円滑な日常会話、物語の朗読、雑音をなくした明瞭な発声の習熟をめざして練習。

⑤ 笛式人工喉頭発声教室：毎週火、木曜日14時～15時

原音「ブー」の発声から、日常会話、朗読などを練習。また、音量の調整方法をはじめとした器具の取り扱い方についても練習。

⑥ 電動式人工喉頭発声教室：毎週火曜日12時～13時

下顎の器具をあてる良い部位の発見と、日常会話、朗読などを練習。また、音量の調整方法をはじめとした器具の取り扱い方についても練習。

(2) 大阪大学付属病院発声教室（大阪モノレール、阪急バス、近鉄バス、阪大病院前）

食道発声教室、笛式人工喉頭発声教室、電動式人工喉頭発声教室：毎週土曜日12時～13時

(3) 大阪国際がんセンター発声教室（地下鉄谷町4丁目）

電動式人工喉頭発声教室：毎週土曜日12時30分～14時

4. 発声補装具などの斡旋・頒布

障害者総合支援法に基づく日常生活用具給付等事業を市町村が実施しています。笛式人工喉頭、電動式人工喉頭、携帯用会話拡声補助装置は、日常生活用具として市町村から給付されます。受給者の自己負担割合は1割(各自の各市町村の決定で一律1割とは限りません)ほどです。給付を希望される方は、身体障害者手帳と印鑑を持って、各市町村福祉担当課に申請してください。その際に、自己負担割合をご確認ください。

当会では、給付の対象となる笛式人工喉頭、電動式人工喉頭、携帯用会話拡声補助装置をはじめ、喉頭摘出者が日常使用する下記の物品を斡旋・頒布しています。

- ①笛式人工喉頭：2,000円～4,000円程度(数種類あります)
- ②電動式人工喉頭：ゼルボックス 72,000円程度
- ③携帯用会話拡声補助装置：ビバボイス 27,000円程度
- ④気管孔保護エプロン：ウインプロン1袋4枚入り 1,400円
- ⑤食道発声教本(大阪国際がんセンター耳鼻科部長 藤井隆・監修) 1,000円
- ⑥代用音声(各種発声法)指導CD：各種発声法の理論と実際(約45分) 1,000円

5. 禁煙活動

当会は、咽喉頭がんの一次予防として、禁煙活動を事業の目的に掲げています。

世界保健機関WHOの「世界禁煙デー」にあわせて、毎年5月31日に禁煙キャンペーン活動を実施しています。大阪府下3か所の街頭で、当会会員が禁煙メッセージを印刷したポケットティッシュを配布して、禁煙を訴えています。

また、タバコの害や禁煙の推進に関する講演活動も依頼があれば実施しています。事務所までお問い合わせください。

6. 入会手続き

入会を希望される方は、事務所までお申し出ください。

また、初心者説明会は入会前でもお受け頂けます。

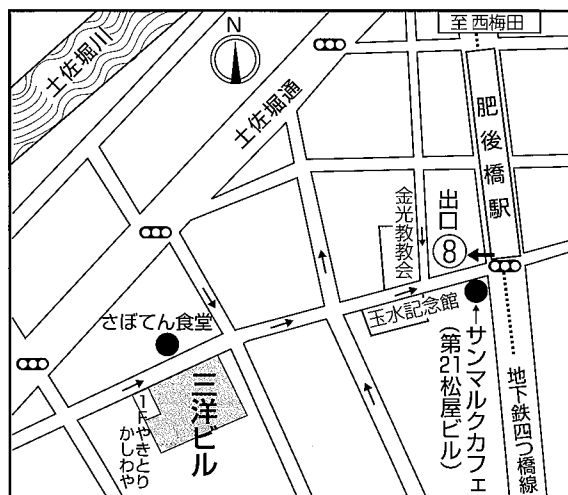
初心者説明会は受講後、ご入会いただけます。

入会金 不要 年会費 3,000円

○定例行事

- | | |
|------------|----------------------|
| ①総会 | 毎年6月第1土曜日
10時～16時 |
| ②春の日帰り研修旅行 | 毎年4月上旬 |
| ③秋の一泊研修旅行 | 毎年9月下旬 |
| ④新年始業式 | 毎年1月上旬 |

ご不明の点は、事務所にお問い合わせ下さい。



のりばご案内

地下鉄 四つ橋線 「肥後橋駅」徒歩3分
御堂筋線 「淀屋橋駅」徒歩8分